

PLAYING IN THE WIND

【風の中でのプレー】

デーブ・ヘイグラー

中国語を話すある生徒に聞いたところ、「風」には「狂った」とか「いかれた」という意味もあるとのことでした。「風まかせ」にしてしまうととんでもないことになります。

私たちは、プレーヤーに「自分がコントロールできることに注意を払い、コントロールできないことに気をとられないようにしなさい。」と指導します。今まで、風をコントロールできるという人に出会ったことはありません。私が教えてきた人達の中には、風は敵だと信じている人がいます。風を気にすると、イライラが募り、力を発揮できません。ここに「風への対処法」をまとめてみました。

【考え方】

1. 風は利用することができる。
2. 風は自分と相手のお互いのショットに影響する。
3. 無風状態の時よりも調整が必要となるので、足を沢山動かすこと。
4. 風をコントロールすることはできない。

【場面】

1. 向かい風の時:

- (a) ネットから高いところを通すように打つ。
- (b) スライスもトップスピンもその効果が増大される。トップスピンは普通より早く落ちるし、スライスは風の強さにより飛距離が伸びたり、早く落ちたりする。
- (c) ロブはしっかりと打つこと。トップスピンは風が押し戻してくれるので効果的であることが多い。
- (d) スライスサーブは良く曲がり、また球足が短くなる。
- (e) トップスピンサーブも良く落ちるので、いつもよりより高くより回転をかけて打ったり、より強く打つことができ、良く跳ねる。
- (f) 打点がいつもと変わるのでサーブのトスは前にする。いつもと同じようにあげると上手くいかない可能性がある。
- (g) コントロールが難しいので、相手にロブを打たせるようにする。
- (h) ドロップショットはネットを越せば非常に有効。
- (i) 狙う場所を深めに調整する必要がある。

2. 追い風の時:

- (a) ボールを入れるためによりトップスピンをかける。
- (b) ネットすれすれを狙うことも考えられるが、危険を伴う。
- (c) 相手のボールが風で短くとまることがあるので、いつでも前に動けるようにしておく。
- (d) 打点がいつもと変わるのでサーブのトスは後ろにする。いつもと同じようにあげると上手くない可能性がある。
- (e) スピンサーブは効果的ではないかもしれないが、打球は早くなる。
- (f) 一般的に、防御のロブやドロップショットは避けるべき。しっかりと打つスライスは効果的。
- (g) 逆をつくよりも、オープンコートに打つことを心がけること。
- (h) 狙う場所を浅めに調整する必要がある。

3. 横風の時:

- (a) クロスコートのショットにも、向かい風と追い風の注意点が当てはまる。
- (b) スライスサーブは、向かい風でも追い風でも効果的。
- (c) トップスピンサーブは向かい風で効果的で、風の強さやスピンの量やサーブの早さによるが、追い風でも効果的。
- (d) より狙い場所を調整する必要がある。
- (e) 斜めから吹いてくる風に向かってのクロスコートショットの場合には、高く強くダブルスアレー、もしくはもっと外を狙って打つ。
- (f) 斜め後ろから風が吹いている追い風状態のクロスコートは、ラインのずっと内側を狙い、ボールを早めにとらえて、スピンをより多くかけて打つ。
- (g) 防御の態勢の場合には、風がボールの飛びをおさえてコート中央に戻してくれるので、高く山なりのボールを風に向かって打つ。
- (h) 相手の斜め後ろから風が吹いている場合には、パッシングショットを低い打点で打たせるようにする
- (i) オープンフェースで打つことができるのであれば、必要な場合に打球直前の調整がしやすいので、風が本当に強いときには有効。
- (j) いろいろと考えることで技術が崩れるので、相手が風に困るような状況を作ること。

以上の点を考えて実践を重ねた結果、私の生徒達の多くは、風のお陰で上手く打てたときの喜びを感じることができ、風の中でのプレーを楽しめるようになりました。風を利用して味方につけて、自分よりも

上手い相手を負かす楽しさを話してくれる生徒もいました。風の中で効果的なプレーをすることを覚えることで、風の無い日でもより良い戦術を考えられるようになるのです。風の日ににんまりとほほ笑んでいるプレーヤーは、風を上手く使うことができている証拠です。それを見ると、私にもにんまりです。

【筆者略歴】 Dave Hagler: 1990年からのメンバーで、ロサンゼルス近郊の Whittier Narrows Tennis Center で指導し、Futures Tennis Academy のプログラムディレクターを務めている。大学のヘッドコーチの経験もあり、USTA の Competition Training Center と Zonal Teams で数年間指導する。カリフォルニアテニス協会から 1997 年, 2000 年, 2005 年に Service Award の表彰を受ける。1996 年には、USTA/ITA から Community Service Award を受賞。2002 年には、HEAD 社から販売促進に協力した5名の PTR のメンバーの一人として受賞。HEAD/Penn のアドバイザースタッフ。

【翻訳・監修】 鈴木真一: アト・イン桜テニススクール(柏市)代表 / PTR インターナショナル・テスター & クリニシャン / PTR テスター委員会委員 / JPTR プロ・オブ・ザ・イヤー(1986)、PTR プロフェッショナル・オブ・ザ・イヤー(2001)を受賞